



氏名 小西 佑理香
所属 商学部 商学科
学年 3年

留学先 交換留学（淡江大学）
留学期間 2024/2/17~2024/6/21

留学レポート Study Abroad Report

概要

- ・台湾の台北郊外にある淡江大学に2~6月の1学期間交換留学に行きました。目的は中国語の語学力向上と、台湾で中国大陸や東アジア、東南アジアについて理解を深めることです。
- ・大学では、中国経済や中国外交などの専門的な授業は英語で受講し、留学生向けの中国語の授業や中華文化の授業は中国語で受講しました。
- ・大学のキャンパス内の女子寮に住みました。1部屋に最大4人の共同生活で、留学生だけでなく、台湾人の学生も多く利用する寮でした。ルームメイトが台湾人なのか、他の外国人なのか、日本人なのかは部屋次第で、私は1人の台湾人と、1人のマレーシア人と、3人で部屋を使っていました。寮費は格安でした。

台湾での生活

- ・台湾の最大の魅力は食です。美味しい台湾料理が安く食べられますし、大学周辺には大量のレストランがあり、食べ物に困ることはありませんでした。外食文化なので、毎食買って食べていました。1食平均500円くらいです。大学の食堂も頻繁に利用しました。

(コンローハン、小籠包、フルーツかき氷)



- ・台湾はとても安全で、女性にとっても暮らしやすい社会です。滞在中、治安の心配はありませんでした。
- ・台湾では、日本食や日本製品も簡単に手に入れることができます。日本人にとってはとても馴染みやすい生活環境でした。
- ・台湾の観光地は小規模で、数も少ないですが、連休には台湾南部の台南や高雄に2泊3日の旅行に行きました。台北は人が多いですが、その他の地域はゆったりとしてとても過ごしやすかったです。また、大学から故宮博物館までは1時間くらいで行くことができ、学生は無料で入場できます。夜市にも

何度も行きました。

(台北の士林夜市、高雄の夜市、高雄の海、故宮博物館)



大学での学び

- ・大学では中国大陸に関する授業を中心に履修しました。淡江大学では、交換留学生は所属学部に関わらず授業を選択することができ、私は国際企業学部にも所属していましたが、外交学部の中国経済や中国外交、外国語学部の韓国語などを履修しました。
- ・週4回、夕方に2時間の中国語の授業があり、クラス分けテストを受けて、習熟度ごとに授業を受けました。

台湾留学のメリット・デメリット

- ・中国語を学びたい学生にとってはとても良い環境です。台湾人の学生とたくさん関わることができるので、聞き取る力や話す力が伸びます。一方で台湾では繁体字を使い、留学生向けの中国語の授業でも繁体字を使うので、台湾では繁体字を覚えることとなります。漢字が書ける日本人にとってはそれほど大きな障壁には感じませんでした。簡体字を忘れていたり、簡体字と繁体字と日本漢字で混乱することもありました。また、台湾人の中国語の発音には特徴があり、中国大陸の発音とは少し異なっています。中国大陸でよく使われる言い回しが台湾ではあまり使われていない、などのような細かな違いもあります。しかし中国大陸内でも中国語には地域差があるので、それほど大きな問題だとは思いませんでした。
- ・台湾は親日で、日本語学習者が多く、日本語学科の台湾人学生と話すことも多かったです。この点に助けられた部分は大きかったです。
- ・私の台湾滞在中には、台湾東部で震度6強の地震がありました。台湾は日本と同じ地震が多い地域です。台湾北西部の淡江大学でも、滞在中に10回以上の小さな揺れを感じました。地震については日本と同じように警戒する必要があります。また、突然国際情勢の影響を受けるような事態が起こらないとは言い切れません。
- ・淡江大学は英語でたくさんの授業が受けられますが、英語を学びたい学生にとってはやはり物足りないと思います。結局、普段の生活や、台湾人とのコミュニケーション、他国からの留学生との会話でも中国語を使う機会が多いからです。英語を学ぶのが目的ならば、英語圏の国に行くのが良いと思います。淡江大学の学生はみんな英語が上手でしたが、台湾の街中では、英語よりも日本語の方が通じるくらいです。
- ・また、住居は寮が基本でホームステイはありません。天気は不安定で雨の日が多く、長い夏は蒸し暑く虫が多いです。

